

美しい山・川・海 人が躍動する 交流と共生のまち



広報

香美

3
月号

平成 23 年 (2011)

No. 72



【写真】

－みんなで考えよう、地域医療－

香美町の医療を考えるフォーラム

最近よく耳にする「地域医療」という言葉。

町民の皆さん、医療関係者、行政などが一緒になって地域医療を考えようと、2月11日、香住区中央公民館で「香美町の医療を考えるフォーラム」が行われました。写真は会場内で発言を行う参加者。

(本号2ページから記事を掲載)

今月の主な内容 (Contents)

- 2 まちのうごき
地域医療 ～ 香美町の医療を考えるフォーラム～
- 8 まちからのお知らせ
町政懇談会
兵庫県議会議員・香美町農業委員会委員選挙
役場各課などからのお知らせ ほか
- 18 まちのできごと
- 20 ふるさとの誇りを訪ねて
(別冊 けいじばん、いきいきカレンダー)

地域医療

今、何が問題で、何ができるのか
考えてみませんか

自分自身のために…

救急車のたらい回し、お産ができない…。
医師の過労による医療事故…。
医師の偏在や絶対数の不足で地方に医師がいない…。
皆さんがよく耳にすることがある、これらの言葉。
果たしてこの問題は、ニュースや新聞の中だけのことでしょいか。
それとも、身近なところで起きている「危機」なのでしょうか。
先日の「香美町の医療を考えるフォーラム」で行われた講演会やパネル
ディスカッションの様様を通して、一緒に考えてみませんか。
今、身近な医療に何が起きているのかを。
そして、何ができるのかを…。

●問い合わせ先
役場健康課地域医療対策室

■基調講演

「橋を架けよう」

～NPO法人

「地域医療を育てる会」の取り組み

（内容を一部抜粋して掲載）

地域医療に

取り組みをきっかけ

私は幼稚園教諭をしていましたが結婚後、3児の母として主婦に専念しました。ある日の深夜、生後半年の子どもが39度近い熱を出しました。このまま朝まで様子を見ていいのか、今すぐ受診したらいいのか、とても迷ったんです。近くの病院には小児科の当直をしていないところがなかったので、結局、自分の車で1時間かけて初めて行く病院まで子どもを連れていきました。

自宅から5分くらいの所に千葉県立東金病院があるのですが、どうも最近医師が減っているらしいというのが外から見ても分かりました。「一体、この地域はどうなっているのだろうか」と。そこで東金病院長に話を聞いてみることにしました。病院長からは、医師

不足、多忙を極める医師と看護師の実情を教わりました。また「医療現場だけで解決できる問題ではない。どうか市民からも行動を起こしてほしい」と投げかけを受けました。

医療に携わったことのない素人の自分に何ができるのか不安でいっぱいでしたが、その時、病院長は「私はこの病院のたった一人の医師になっても、また診療所になったとしてもここに残る」と。この地域医療に対する熱意が、私にこの問題に取り組ませることを決意させました。

飛べないペンギンは

「飛べるようになる？」

ペンギンが飛べないことを知らなければ、周囲の人は無理難題をけしかけません。「根性が足りない」だとか「飛

ぶ姿を見る権利が私たちにはある」と。でも、ペンギンが間違っているのでしょうか、それとも周囲の人が間違っているのでしょうか。

医師は寝ないで仕事ができるようになると思いますか。一生懸命働く医師に対して、無理難題をけしかけていませんか。「医師は人を助けるのが仕事」とか「何で診られないのだ」また「いつでも診察を受けることができるのは私たちの権利だ」と。

大学はすべての病院に医師を送ることができると思えますか。地域の病院は「医師の不足」、「お産ができない」、「救急医療が成り立たない」、「経営が破綻寸前」などの難題を抱えています。「このままでは安心して暮らせない！行政なんとかしろ」といった住民の声を受けて、自治体や病院が医師派遣を要望しても大学に医師はいません。

この事実を皆さんが知らない、飛べないペンギンに無理を言う人と同じではないでしょうか。

住民として

何ができるのか

どうすればいいのだろうか、何ができるんだろうと考え、「対話をする地域医療」に取り組んでみようと、この会を発足させました。この会では情報の発信と対話の場作りを行っています。

情報発信のポイントは医療、行政がどんなことに困っているのか、その問題を解決するために私たち住民に何ができるのかという点です。このために、私たちは情報誌を隔月で2万部発行し、ホームページにも掲載しています。

その中で特集したのが夜間救急外来密着ルポです。スタッフ2人が救急医

療の現状を取材しました。夜間は次々に患者が運ばれてきます。当直医は休む暇もなく対応します。そして勤務時間は36時間を超えています。医師や看護師の健康は大丈夫でしょうか。

これはこの地域に限らず全国の病院で見られる実態です。救急医療を考えると、医療を受ける側ではなく医療の現場から学ぶという視点の転換が必要だと感じました。いかに地域の医療が切迫しているかということ皆さんに知ってもらおう、情報を共有しようとする取り組みを行っています。

では、この問題の解決のために住民に何ができるのか、私たちなりの答えを情報誌に書きました。「昼間受診できるものだけ昼間に。夜間救急は命に関わる患者のためのもの。夜は昼間と同じ医療は受けられない」とこのことを住民が知っておくことが大事なんです。

でも、情報発信は一方通行です。よく分からず書き書いても、情報をもたらした人は「じゃあ、どうすればいいのだろう」と考えます。そこでみんなで考え、話し合える場が大切なのではないかと思ひ、そのような場作りにも取り組みました。

大事なことは、住民、医療、行政、福祉の関係者が集まって、みんなで考えることではないでしょうか。「何が問題なのか」、「どうすればいいのか」その知恵を出し合うことが必要です。

医療や行政だけが答えを出す時代は終わりです。現在の医師不足や医療崩壊は、医療や行政の力だけでは解決できません。私たち住民にもやらなければならぬことがあるんです。そのことを共通理解をするために、みんなで集まって話し合う場が必要となります。懇談会、学習会などさまざまなことをしましたが、ほかにはない取り組みとして次の2つのことを行いました。

一つ目は「医師育成サポーターによるレジデント研修」です。東金病院の懸命な努力で地域に若い医師が集まり始めました。でも、住民の中にはこう言う人もいました。「あなたのような若い医師で本当に大丈夫なの」と。大学からの派遣に頼っていたら医師不足は解消しません。地域の病院では若い医師を育て、地域医療を担ってもらおうという考えに変わってきています。ただ、こうした取り組みは地域住民には浸透していませんでした。そこで、

住民が医師を育てる場をつくらうと考えました。

レジデントは医師免許を取得して3年目以降の後期研修医を指します。その若手医師のコミュニケーション技術を高める研修を始めました。1カ月に1回、約1時間で、研修医による病気の話などの後、研修医と医師育成サポーターといわれるボランティアとの自由討論を行います。

「救急医療はどうなっているのか」というテーマで行った自由討論では、「救急車が来ても受け入れ病院が決まらない」、「搬送先が分からず不安」などと訴えるサポーターの声がありました。これに対して、病院から救急搬送の受け入れ状況を示したデータを提供してもらいました。そこで分かったことは、夜間救急は昼間の1・5倍、でも診察の結果、自宅に帰れる軽症者が多いということ。また、昼間も夜間も入院患者の数は同じという事実でした。

こういったことは病院がなかなか口に出せないんです。「夜間は軽症の患者が多くて、医師も疲れているんです」とは。大事なのはこうした医療現場の現状を住民が伝えていくことなんでしょうね。

サポーターの中には「住民の目線で自分たちにできることは何なのか、そのことを考えるきっかけになった」と感じた人も。また「当初は自分が評価されることに抵抗を感じた。でも、サポーターが熱心に話を聞いてくれ、また深い内容の質問を投げかけてくれる中で、積極的にこの研修に関わってきたい」と言う研修医も。

この研修を通して、病気の予防を学びました。でも、それ以上の成果は、患者ではなく住民として参加することで築くことのできた「地域住民と医師の対等な関係」、そして地域や患者の生活環境などを視野に入れた医師の育成を手助けできたことでした。

2つ目は、夢と希望を創る地域医療プロジェクト、略して「夢プロ」です。これは6回の連続講座です。今までにあった講演会などで「身の丈にあった医療が大切」と学びました。では「自分の身の丈」とは何なのか、私たちは理解していませんでした。

単発の講座では地域医療やそれを取り巻く問題を学びきれません。それなら、いつそ自分たちで連続講座を行い、自分たちの知りたいことを学ぼうと。



藤本晴枝氏

ふじもと はるえ

NPO法人 地域医療を育てる会理事長

1983年東京学芸大学卒業

2005年同会発足後、理事長に就任

現在は厚生労働省チーム医療推進会議委員などの要職を務める

講師をその都度お願いし、講義の後は参加者がグループに分かれて話す時間があるんですね。ここでは「コンビ二受診を控えようね」、「自分の健康は自分で守ろうよ」という話が出てくるのです。

飛べないペンギン でも泳ぐことは得意！

～一方通行から相互通行へ～

今までの橋は「一歩通行」でした。住民が要望すると医療や行政がそれに応える。これからは「相互通行」の橋です。住民が医療や行政の課題、取り組みを知り、住民自身もプレーヤーとして医療再生に参画していく。大事なのは、医療現場や行政が実情を伝える勇気を持つ、また、住民はその情報に耳を傾けるということです。

「飛べないペンギンは、飛べるようになりません。でも泳ぐのは得意です。水の中では泳ぶように泳ぐんですね」。何を言ってもできないものはできないのです。相手にできないことを要求するのではなく、できること、持ち味を生かしあつて、いい地域を作っていくといいですね。

「地域医療」は「地域が生き生き暮らせる医療」

(内容を一部抜粋して掲載、敬称略)

深刻な「病院と医師」の現状

阿江 まず今の病院の現状や問題点を両院長にお願いします。

浦辺 ※新臨床研修制度で研修医が臨床事例の多い大都会志向になりました。このため鳥取大学病院でも派遣できる医師が限られ、医師の引き上げを余儀なくされています。

本院でもこの影響で常勤医師の減少や診療科、病床の縮小が進んでいます。また、医師の高齢化も顕著です。最高14人いた医師が、現在は常勤医師が4人、非常勤嘱託医師は1人。今の体制では、外来、入院、人工透析、介護施設、救急は夜9時まで行っていますが、これ以上は困難です。将来的には有床診療所への転換も視野に入れなければならぬのかと危惧しています。また、

町の検診や校医などにも支障をきたしています。

石田 本院は村岡と小代を診療対象としています。入院患者も高齢ですので、完治せずに障害を持って退院される方が多いです。そのフォローとして定期的に訪問診療を行っています。これは大変ですが、高齢者医療を行ううえで、どうしてもせざるを得ないです。訪問看護や在宅での看取りも行うというのが村岡病院の特徴です。

このことを知らない患者さんから「先生は楽でいいですね。週3回、外来診察すれば給料をもらえるのだから」と言われたこともあります。

医師が5、6人いたころは良かったんですが、現在は3人しかいないので週に70時間程度働いています。医師は患者が良くなってくれることで満足で

住民の願い

阿江 住民の方からの声を聞いてみたいと思います。



コーディネーター
阿江 竜介 氏
(自治医科大学地域医療学センター)

田中 病院や行政へお願いとして、診療科の増設と専門医の確保、そして救急医療をいつでも受けられるようにしてもらいたい。また、高齢者や独居老人も増えているので、そういう人を大切にしたい通院方法や往診のできる体制も考えてもらいたい。

住民も医師としっかり話をして、自分自身の体調や症状を把握することが大事だと思います。また、医師やその家族が住みやすい環境を作り「香美町は住みやすいまちだ」と思われることが大切だと思います。香美町に魅力があれば、ぜひ行ってみようと思う医師もいるのではないのでしょうか。

また、町ぐるみ総合健診などを受けられることも大事です。忙しいなどの理由で自分の体に関心を持たない人もいますが、病気の早期発見は大切です。

香住病院では糖尿病教室なども行っています。積極的に参加して講師の話聞き、予防などに取り組んでいけば医師の手も省けると思っています。

小谷 村岡区、小代区も独居高齢者や高齢者夫婦が増えています。皆さん、生まれ育ったこの地で生涯を全うしたいと思つています。私たちの願いは高度救急が整い、専門病院で治療を受けられることが前提の上で、香美町では日常的な病気や老化に伴う障害などに対応してもらいたいということです。

現在、村岡区、小代区の病院や診療所ではその役割を果たしてもらつています。病院では薬をもらうだけではなく、丁寧な説明や具体的な指導を受け心から「ありがたいございます。またよろしく願います」というのが終わりのあいさつになっています。私たち高齢者はこのような病院のおかげで安心して暮らすことができている。今後もこの体制を継続し、守ってもらいたいです。

私たちは、医療の前には予防があり、医療のあとには看護、介護が続いていくことなどを十分理解しないまま利用しています。老人クラブなどさまざま

な活動を通してこのことを学び、賢い利用者になる必要があります。

行政の考えは

阿江 行政の立場としてどうですか。
長瀬 町としても安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

病院の現状は先ほど両院長が述べられたとおりですが、診療所についても診療回数の減少や休診を余儀なくされている現状で、医療の提供が十分に行えていません。

医師不足は本町のみならず但馬、全国でも同様の状態です。そのようなか、ないものねだりをしていても仕方ないのではないかと、この現状を皆さんと共有し、何ができるのか、町民の皆さん、医療機関、行政が一体となって考えていかなくてはなりません。

受診時の「医師の一言」

阿江 基調講演いただいた藤本さんにもご参加いただき進めていきます。今回は来場した皆さんがただ聞くのではなく、共に考える場にしたいと思いま

す。そこで次のことを念頭においてください。

一つ目は「今日の主役は誰なのか」ということです。それは間違いなく来場したすべての皆さんです。この地をより良くするにはどうすればいいのか考えてみてください。二つ目として、恥ずかしがらないで発言してください。この問題は何が正しくて、何が間違っているのか分かりません。また医師を「殿様」扱いする必要もありません。医師は職業の一つで、皆さんと同じ人間です。ご近所さんのつもりで発言してください。三つ目は、あれもだめ、これもだめではなく、楽しいことを発言してください。

それでは、藤本さんの講演やパネリストの皆さんの発言を受けて意見があればどうぞ。

会場内男性 私はPTA会員です。先日ある会で「うちの担任は若い先生で頼りない」といった話が出ました。そんななかで「若い先生を育てるのも保護者の役目」と話をしていました。今回の問題に置き換えると若い医師を育てるのは住民の役目なんではないでしょうか。自分たちに何ができるのか、結局、

若い先生同士で切磋琢磨してもらえないんじゃないかと思つていました。しかし、先ほどの講演で光が見えた気がしました。

さて、ある日、子どもが遊具で遊んでいてお腹を打ちました。夜中の3時ごろに「痛い、痛い」と泣くので豊岡病院に連れていきました。その時の先生が「今より朝のほうがいいよ。今は何もできないから」と。でも、自分の痛みならどんな痛みか分かりますが、子どもの痛みは分かりません。夜中の3時に何のためにここまで来たのか。「できないって、そしたら何だったらできるんですか」と尋ねると「CTぐらいなら」と返事があつたのでお願いしました。結果「これぐらいだったら大丈夫ですね。命の心配はありませんよ」と言われ、この言葉で安心して帰宅することができました。

もう一回は、自分の手が上がらなくなった時のことです。医師は僕の話あまり聞かず、僕の体を触ることもなく「筋が切れていますね」と。「ほかにこういう症状があるんですけど」というと「じゃあ、そこも切れてますね」などと不誠実な対応でした。「先生、

～パネリスト～



浦辺啓太氏
(公立香住病院院長)



石田長次氏
(公立村岡病院院長)



田中啓夫氏
(香住区区长会長)



小谷博氏
(村岡区老人クラブ役員)



藤本晴枝氏



長瀬幸夫氏
(香美町長)

申し訳ないですが、僕はもう先生の診察は受けたくないです」といつて帰ったことがあります。

診察を受けるにしても、言葉一つで安心できるときもあるし、この先生で本当に大丈夫なのかと不安に思うことがあります。「実は、医師不足が質の低下につながっているのでは」と感じています。

阿江 確かに医師の一言は非常に重要ですね。この点について院長や藤本さんのご意見は。

石田 村岡病院は、短いときは半年程度で医師が入れ替わります。そして来るのは20代の若い医師です。

私からのお願いは、若い医師が診察室にいても残念な顔をしないで欲しいということ。若い医師も自信がなく、勉強途上なのです。若い医師が診察することになっても「この医師にも人生教えたろうか」という広い心を持って、失望感を見せないで接してください。

阿江 先ほど若い教師の話がありましたが、まさしく同じテーマだと思えます。藤本さんどうですか。

藤本 世の中全体が「失敗しないように」という風潮にありますね。でも、失敗は人間につきものです。私たちも若い頃は人に迷惑をかけながら大人になつてきたはず。若い人のトライアンドエラーを温かく見守っていくことが自分を育ててくれた人への恩返し

ではないでしょうか。

「失敗しないように」と思うと何かあったときのフォローができません。何かまずいことが起きたとき、みんなで知恵を出す、助け合う、そういうことにエネルギーを使つたほうが生きやすくなるはず。学校の現場でも、保護者が完成されたものを求めすぎているのではないのでしょうか。

病気を診る医師

病人を診る医師

阿江 ほかにご意見は。

会場内男性 私の妻は頸椎後縦靭帯骨化症と関節リウマチを患う重症患者で、現在、八鹿病院のお世話になって

います。ある時、病院が「気の毒ですが、3カ月たつたら転院を考えてもらわなければなりません」と。じゃあ、妻はその後どこにお世話になればいいのか。家族として何ができるのか。一体どうしたらいいのか、本当に深刻な思いを持っていきます。これがこの地域の現状なのです。

妻は俳句を詠んでいます。「土筆踏み笑顔良き医者に会いにく」。重病者ですが、医師の笑顔を見に入院しました。しかし、本人、そして転院を告げる医師の顔も非常に厳しい。3カ月ごとに転院することは医療制度の問題だと思えますが、これは高齢者の共通

の問題なのです。

先ほど医師不足の話がありました。八鹿病院の院長は著書の中でこう言っています。「へき地ほど病む人間を診る素晴らしい場所はない。医師は病気を治すのではない。人を治すんだ」と。そういう意味から医師の皆さんには、医学を志す学生にぜひ話してもらいたい。「地域は病人の生い立ち、生活、最期まで診ることのできる、医師にとつて素晴らしい場所」だということ。

阿江 私も本当にそう思います。「病気を見る医師」と「病人を見る医師」、確かに違います。これは、その医師の人生経験、性格でも違うのでしょうか。私も常に後者を求めています。また若い医師にもそのことを教えています。

しかし、病院の中には病人を診る医師にはなれない。地域に出て、さまざまな皆さんと触れあうことで初めて、病人を診ることができるようになるのでは。そのためには住民の皆さんの力が非常に重要なものになるのではないのでしょうか。

先ほどの石田先生の話にもありました。ぜひ皆さんも「若い医師は私たちが育てているのだ」とどんどん関与してください。

若い医師は

「地域の中で育つ」

阿江 ほかにご意見は。

公立浜坂病院 山田博之医師 昨年まで村岡病院に勤務していて、村岡病院が大好きです。皆さん、例えば頭が痛いとき、豊岡病院や八鹿病院では何科を受診しますか。分からないですよね。でも、村岡病院にある総合診療科では頭が痛かろうが、おしつこが近かろうが、どんな症状でも受診できます。私が、なぜ村岡病院に興味を持って大好きかというと「人として診れる病院」だと思っからです。私も20代後半の若い医師です。1年8カ月の村岡病院勤務で大変いい経験をさせていただきました。

香美町や但馬内では小児救急セミナーを行っています。私自身は内科医で小児専門医ではありませんが、子どもがどのような症状なら家で様子を見ても大丈夫か、救急車を呼んだほうがいいのかといったことを若い保護者の方などにお話しています。

地域医療を考えると、私は「どのような症状でも診る」ことを心がけています。でも、「医師が少なくなつて病院がつぶれる。どこも行く所がない」というので

はなく、「自分で判断できることは自分で判断しましうね」という



◀会場内で発言する山田医師

地域になってもらいたいと思っ
ています。そのためなら、私
たち医師は情報をいくらか
でも提供します。そのかわり
住民の方々からも私たちに
対してどういった情報を提
供して欲しいか教えてもら
えれば。そうすれば私たち
も地域

住民の皆さんの中で講演す
ると、病院では患者と対等
になれていなかった、自分
が「殿様」だったことが分
かります。病院で医師から
説明を受けると、皆さんは
「はい」と言わざるを得
ない状況じゃないかと思
います。でも、地域、住民
の中に行くと「本当にこん
なことも分かってないの
か」ということが自分の中
で分かってくるんですね。そ
れが分かると、病院の診
療に生かしていける、す
ごくいい循環が生まれます。

先ほどの講演にもありま
したけど、研修医を育てる
という事は住民の皆さん
や行政ができることでは
ないでしょうか。そのこと
をこの会で皆さんに考
えていただけたらと思
います。

阿江 山田先生のセミナー
に参加したことがある人
いますか。

会場内男性 私も含めて
セミナーに参加した人
は「へーそうなんだ。こ
んなことなんだ」と驚
いている人が多くいま
した。また、「もっと勉
強したいな、もっと話
を聞きたいな」とも
好評でした。

阿江 ありがとうございます。
「自分

たちに何ができるんだ」と
思う人がいますが、難しい
ことをしろと言ってる
わけじゃないんです。こ
ういう場に参加すると
か、何か発言するとか、
そういうことが大事じゃ
ないでしょうか。

感謝の気持ちと「地域力」

会場内男性(NPO法人会員)
今日の話聞いていて、この
地域はすごいなと思うの
が、高齢化率が40%に
なると、医師が一生懸命
活動している、そして地
域の皆さんが医師のこ
とを真剣に考え、自分
たちがしなくてはなら
ないことを認識して
いることです。

このことを地域の皆さん
が共有できれば素晴らしい
ですね。さて、私
たちは医師に対して感
謝の気持ちを表す必要
がありませんか。感謝
の気持ちや普段思っ
ていることを言葉に
して表現することは
大事なことだと思
うんですね。

私の最初の子
どもが生まれた病
院は縁もゆかり
もない場所
でした。生後
数カ月して、
子どもの写
真を使って
ポストカ
ードを作り、
病院に送
ったところ、
医師は待
合室にその
ポストカ
ードを貼
ってくれ
ました。そ
れがきつ
かけで、
病院の壁
にポスト
カードが
次々に貼
られてい
きました。

には「先生あ
りがとう」、「
子どもがこ
んなに大き
くなりました
」といった
感謝の気
持ちは何
かを医師
に伝え
たかった、
でも、そ
の手段
が見つ
からな
かつた
んですね。

堅苦しく考
えないで、
日ごろお
世話にな
っている
医師に気
持ちは伝
えること
が大切
なんだと
思います。
感謝の
気持ちを
伝える
場を作
ったり、
また、
メッセージ
を届けた
りすると、
そのこと
で医師
も、住民
からこ
んなに
期待され
ているの
だな、こ
んな風
な気持ち
で接して
くれる
んだな
と受け
取ってく
れるの
ではな
い
で
し
よ
う
か。



▲公立香住病院 大塚拓治医師に保護者と子どもたちが宛てたメッセージ (同院小児科)

私もPTAに携
わっていて、
教師が忙
しいことを
知っています。
でも、保
護者にも
できること
はあるん
じゃない
でしょうか。
例えば教
師が行っ
ている雑
用を保護
者が積極
的に行っ
ていく。そ
のことで
教師に余
裕が生ま
れたら、
その分、
子ども
たちに接
してもら
う。私も
教師を
育てるの
は保護者
だと思
うし、保
護者を
育てるの
は地域の
皆さんの
地域力
だと思います。
自分が
何が
できる
のか、そ
のため
に今、
何を
しな
ければ
なら
ない
のか。
ぜひ
皆さん
で考
えて
い
た
だ
け
ら
ば
と
思
い
ま
す。

阿江 最後に藤本さん
お願いします。
藤本 元氣のある人は
地域を元氣にする
ために、も
っとい
ろんな
ことを
して
いただ
ければ、
先ほ
ど奥
さん
のこ
とで
ご苦
勞さ
れて
いる
方
が
い
ら
し
や
い
ま
した
が、
そ
う
い
う
方
々
の
S
O
S
を
周
り
で
ど
う
い
う
風
に
支
え
て
い
く
の
か
と
い
う
こ
と
は
す
ご
く
大
事
な
こ
と
な
ん
だ
す
ね。

今、全国
ではSOS
すら出
せない
で一人
で亡
くな
って
い
く
方
や、
悲
し
い
決
断
を
す
る
方
が
増
え
て
い
ま
す。
で
す
か
ら
SOS
が
出
た
と
き
に
は
地
域
と
し
て、
同
じ
仲
間
と
し
て
ど
う
す
れ
ば
い
い
の
だ
ら
う
か
と
い
う
こ
と
を、
私
た
ち
は
忘
れ
な
い
で
心
を
寄
せ
合
っ
て
い
く
こ
と
が
大
事
で
す。
制
度
が
変
わ
る
こ
と
を
待
っ
て
い
て
は
絶
對
に
物
事
は
解
決
し
ま
せ
ん。
皆
さ
ん
の
温
かい
心
を
そ
う
い
う
方
々
に
少
し
使
っ
て
い
た
だ
け
ら
と
期
待
し
て
い
ま
す。

町政懇談会

一人ひとりが、まちの主人公

●問い合わせ先 役場企画課

町長をはじめ役場幹部職員が町民の皆さんと今後の町政推進の基本的な考え方などについて意見交換を行う「町政懇談会」を1月22日、23日に町内3会場で開催しました。

この懇談会では来年度以降の町政推進の方針や主要な施策、課題などを説明したあと、参加者と意見交換を行いました。3会場で計173人の町民の皆さんが参加し、活発な質疑が行われました。ここに各会場の主なご質問やご意見を紹介します。

なお、紙面の都合上、すべての内容を掲載していませんがご了承ください。



▲1月22日、小代会場の様子

小代区

1月22日 小代区総合センター

【病院存続】

Q 町民の生命、健康を守るため村岡病院、八鹿病院の一層の充実を。

A 村岡病院、八鹿病院に限らず、医師不足は喫緊の課題です。研修医制度が変更になったことや医師が地方勤務を嫌うことなどさまざまな要因が考えられますが、今後も鋭意、医師確保に努めるとともに、関係団体と協力して救急体制を維持できるようにドクターヘリやドクターカーを効率的に運営していきます。また、健康診断など予防事業の支援を継続し、皆さんが安心して暮らせるように努めます。(町長)

【起業などへの支援】

Q 起業、創業支援について、どのように考えているのか。また、耐震補強を推進し、安心、安全な暮らしを実現してもらいたい。

A 町内企業に競合しない、新しい業種で起業をされた場合に支援を行うしていきたいと考えています。これは町内業者に限って進めていきます。耐震化は、まず学校から進め、一般住宅などでは耐震診断を積極的に進めます。町内の耐震化率が低い現状を踏まえ、町も耐震化を含むリフォームなどに対して支援ができないか検討します。(町長)

【学区再編】

Q 現在、県で検討されている学区再編で村岡高校が廃校とならないか危惧している。町はどう考えているのか。

A 町も現在の学区を堅持し、村岡高校が存続できるよう取り組みを強化する方針です。現在、但馬3市2町が協力し、県に対して学区維持の要望を行っています。また、村岡高校には地元での中高一貫教育や特色ある学校づくりなどについて協力をお願いします。(町長)

【ジオパーク】

Q 昨年、世界認定された山陰海岸ジオパーク。小代区にもさまざまなジオパークがあるが、この認定は4年ごとに見直しがあると聞いています。整備や管理を怠れば小代区のジオパークだけが認定から外されるのではないかと危惧している。

A 4年ごとに見直しが行われますが、これは山陰海岸ジオパーク全体の管理運営面、観光企画面などを総合的に審査するものです。仮に整備や管理を怠っているからと小代のジオパークだけが認定を外されることはないと考えます。(産業部長)

村岡区

1月23日 村岡老人福祉センター

【日用品宅配サービス】

Q 高齢者に対する日用品宅配サービスは商店街のにぎわいづくりと連携するのか。また町はこのサービスに人材派遣を行うのか。

A このサービスをを行ううえで、町と商工会、商店が連携を図ることとは大変重要です。実施は商店街などに行っていたら、町はその実施者に支援を行います。人材派遣を行う考えはありません。(町長)

【保育園通園バス廃止】

Q 来年度、村岡区内の保育園通園バスが廃止になる。義務教育でない保育園には何の支援もないのか。

A 旧村岡町時代、へき地保育所統合を契機に通園バスの運行を始めましたが、現車両の老朽化や香住区小代区では町が通園バスの運行を行っていない状況を考え、今回やむを得ず廃止の方針としました。ご不便をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いします。(町長)

町内のほかの保育園では、保護者の皆さんで組織している保護者会が通園バスの費用負担を行っています。(健康福祉部長)

Q 保育園通園バスを廃止されると、働いている母親は大変困ることになる。どう対処するのか。

A 現在、延長保育に支援を行う方向で保護者の皆さんと協議を行っています。(町長)

【まちづくりの方向】

Q 「創造と活力のあるまちづくり」の推進とあるが、来年度予定されている施策でこれが達成されるのか、明確な方向性を検討してほしい。また役場に向いても職員に元気がないように思うが、職員への教育についてどうしているのか。

A 町がどういふことができるかは、町内の企業や団体をどう支援するかだと考えます。人口減少を食い止めることは難しいのですが、頑張っている企業や団体を支援し、町の活力を底上げしていくことが行政の行うべき

ことだと考えます。町全体の予算に対する自主財源は全体の約4分の1、残り4分の3を国や県に依存している厳しい財政状況の中で、町民の皆さんから知恵をお借りしながら、町の行うべき支援について検討していきます。また、役場職員に対するご指摘ですが、職員にあいさつなどを徹底させ「役場職員は町民から厳しい目で見られている」と意識させています。(町長)

香住区

1月23日 香住文化会館

【経済対策】

Q 公共投資が減少し町内産業も低迷している。町は今後をどのように考えているのか。

A 国、県においても厳しい財政状況下で公共事業を減らしていると、優先順位を決めて新規事業を行っています。今後は学校の耐震化など緊急性の高い事業を優先的に行う予定です。また町内事業者支援の観点から、町内でできる事業はなるべく町内事業者にお願いできるように、入札基準などを検討していきます。

産業振興は、昨年度策定した過疎地域自立促進計画(過疎計画)に各種ソフト事業を盛り込んでるので順次行っていきます。(町長)

【公共交通】

Q 地域公共交通の維持確保に新しい取り組みはあるのか。

A 町民バスや福祉タクシー、スクーターバスなどを一体的にどのような整備するか、また高齢化が進む中でどうすれば町民の皆さんの足を確保できるのか、早急に検討し対策を講じていきたいと考えています。(町長)

【香住小学校改築】

Q 子どもたちが一日の大半を過ごす学校。今後予定している香住小学校の改築には現場の先生の声を取り入れ、よりよい学校にしてもらいたい。

A 香住小学校の改築にあたっては、改築検討委員会(内部委員会)を設けて役場職員で協議を行うとともに、改築推進委員会(外部委員会)に



▲どの会場でも活発な質疑が交わされました(1月23日、村岡会場)

各区・自治会長、PTA、老人会、婦人会などの代表者にご参加いただき協議を重ねてきました。設計業者が決まってから、学校、幼稚園の先生などと検討を重ね、よりよい学校になるよう力を注いでいます。(教育次長)

【行政放送】

Q 以前、福祉施設の入所者が行方不明になり役場に行政放送をお願いしたが、日曜日なので担当者が不在、放送できないと回答された。放送体制の整備を。

A 職員が不在となる夜間、休日、宿直員、日直員が対応しており、異常事態が発生した場合は担当職員に連絡をする体制をとっています。今回はこれらが徹底できていなかったためご迷惑をおかけしました。再度、放送体制の徹底を図ります。(総務部長)

【配付物】

Q 役場からの毎月の配布物が大変多い。回数や量を減らすことはできないのか。

A 昨年9月頃から、役場各課などがチラシの配布を行う場合は、その内容を検討のうえ広報誌に掲載することで少量化に努めています。また、来年度からはイベントの開催案内などを1枚のチラシに集約化するなどの対応を予定しています。(総務部長)



兵庫県議会議員・香美町農業委員会委員
私たちの代表を決める大事な選挙が行われます！
 ●問い合わせ先 香美町選挙管理委員会（役場総務課内）

兵庫県議会議員選挙

4月10日（日）投票

各投票区にある投票所で午前7時から午後8時までに投票してください。ただし、香住区三川、土生、御崎の各投票所での投票は午後7時までとなります。

期日前投票

4月2日（土）～9日（土）
 午前8時30分～午後8時

投票日に旅行などで投票に行けない人は、早めに期日前投票をしましょう。本人が投票所入場券を持参し、次の期日前投票所で投票してください（認印などは不要）。なお、投票所入場券がなくても、本人と確認できれば、投票することができます。

※住所に関係なく、町内のどの期日前投票所でも投票することができます。

【期日前投票所】

- ・ 役場本庁舎
- ・ 村岡地域局
- ・ 小代区総合センター（小代地域局）

香美町農業委員会委員選挙

4月17日（日）投票

各投票区にある投票所で午前7時から午後8時までに投票してください。ただし、香住区御崎の投票所での投票は午後7時までとなります。

また、一部の投票所では兵庫県議会議員選挙と異なる投票所があります。詳しくは投票所入場券をご覧ください。

選挙区

この選挙は町内に2つの選挙区を設けています。

- ・ 香住区選挙区（定数8人）
- ・ 村岡区小代区選挙区（定数12人）

投票できるのは…

今年1月1日現在で調製し、3月31日に確定する香美町農業委員会委員選挙人名簿に記載されている人に限られます。

期日前投票

4月13日（水）～16日（土）
 午前8時30分～午後8時

期日前投票の方法や投票所は、兵庫県議会議員選挙の期日前投票と同じです。

※この選挙の期日前投票場所は各選挙区に住所を有する人に限られ、例えば小代区の人が役場本庁舎（香住区）で投票することなどはできません。

「不在者投票」

投票に行けないときはご利用ください！

香美町の選挙人名簿に記載されている人で、長期出張などにより町内で投票ができない場合、滞在先の選挙管理委員会に不在者投票をすることができ

- ① 香美町選挙管理委員会に対し、「投票用紙等請求書兼宣誓書」を電話などで役場または各地域局へ請求します。
- ② 「請求書兼宣誓書」を受け取ったら、必要事項を記入し提出します。
- ③ 町選挙管理委員会から、選挙人に投票用紙などを送付します。

④ 投票用紙などの交付を受けたら、最寄りの選挙管理委員会へ出向き投票します。

※最寄りの選挙管理委員会が選挙を行っているとき…午前8時30分～午後8時

※最寄りの選挙管理委員会が選挙を行っていないとき…平日の午前8時30分～午後5時

●そのほかの不在者投票

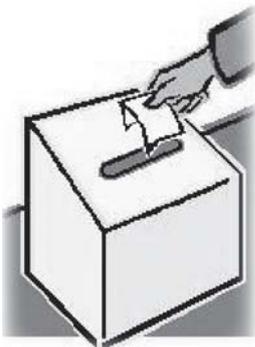
【指定病院などでの不在者投票】

病院長などに対し、不在者投票をする旨を申し出てください。その後の手続きは病院などが行います。

【郵便などによる不在者投票】

体が不自由で投票に行くことができない人（両下肢、体幹、移動機能の障害の程度が2級以上の方など）には、郵便などによる不在者投票制度があります。

この制度を利用するには、投票に先立ち、「郵便等投票証明書」の交付手続きが必要です。



いきいき通信

認知症は...

早期発見・早期対応!

◇身近な問題

65歳以上では10人に1人、85歳以上では4人に1人がなるといわれる「認知症」。本町でも加齢に伴い、認知症が原因で要介護認定を受けている人が多く見られます(下図)。

認知症の症状は、老化による単なる物忘れと区別がつきにくく、本人や家族が「年のせい」と思うような日常のわずかな変化が、認知症のサインであることがあります。

◇早期発見の効果!

認知症はその原因となる病気を適切に治療すれば、症状の改善や進行を遅らせることができます。早期発見、早期治療を心がけましょう。

◇思いあたること、ありませんか?

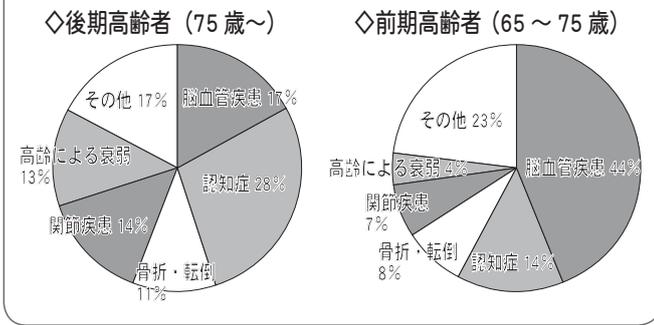
- 同じことを何度も言ったり、聞いたりする。
- 物の名前が出てこない。
- 置き忘れやしまい忘れが目立つ。
- 約束の日時や場所を間違えるようになった。
- ささいなことでも怒りっぽくなった。



- 独りになると怖がり寂しがったりする。
- 趣味や好きな番組に興味を示さなくなった。

個人差もありますが、日常生活の中でいくつか思い当たることがあれば、かかりつけの医師や本センターにご相談ください。

平成22年度町内要介護原因



● 問い合わせ先

いきいき相談センター(役場福祉課内)
 TEL 0796・36・4004 (直通)

クーリングオフはがきの書き方

(裏)

契約解除通知書

契約日 ○年○月○日
 販売業者 ○会社
 販売業者住所 _____
 担当者 _____
 契約内容 _____
 契約金額 円 _____

上記契約の解除を申し出ます。
 (既払金〇〇円を返還請求します)
 (商品の引き取りをお願いします)
 ○年○月○日

(表)

〒□□□-□□□□

(切手)

販売業者 住所 _____
 販売業者 代表者名 _____

住所 _____
 氏名 _____

消費生活相談

賢い消費者になりましたよ!!

◇「クーリングオフ」ご存知ですか?

訪問販売や電話勧誘販売などで不意に誘われて契約した場合、3000円以上の商品であれば無条件で契約の取り消しができます。頭を冷やして考える期間と考えてください。

「その気になって契約・購入したが、あとでよく考えると高額。どうしよう...」。そんな時は、クーリングオフの通知を書面で申し出ることにより、契約は取り消しできます。



◇クーリングオフできる期間

取引の形態によって期間は異なります。会員制で、ほかの人を加入させれば利益が得られると語って商品やサービスを契約させる「連鎖販売取引」は20日以内、訪問販売、電話勧誘販売、エステや家庭教師などのサービスは8日以内です。

また、販売者がクーリングオフをさせない行為をした場合「クーリングオフ妨害」となり、期間を過ぎていてもクーリングオフできます。

◇手続きの方法は

はがきなどの書面で「特定記録郵便」または「簡易書留」で郵送します。クレジット契約した場合はクレジット会社社にも同様に通知します。また、証拠として書面を両面コピーして保管しましょう。

<消費生活相談窓口>

- 役場消費生活相談窓口(役場町民課内)
TEL 0796・36・1941 (直通)
 - たじま消費者ホットライン
TEL 0796・23・1999
- ※相談無料で秘密は厳守!!



3月12日からダイヤを一部改正

香美町町民バス

●問い合わせ先

役場企画課

全但バス欄営業部乗合事業課 Tel.079・662・2133

小代区内で運行している香美町町民バスと全但路線バスの水間口バス停（全但路線バス）での乗り継ぎを改善するため、次のとおり運行時刻を変更します。

なお、詳しくは別途配付（小代区のみ）の改正時刻表をご覧ください。

	秋岡発	水間口	神場着
現在	11:37	⇒ 12:04	⇒ 12:13
変更後	11:47	⇒ 12:14	⇒ 12:23

※ 10分遅くなります。

	神場発	水間口	久須部着
現在	12:20	⇒ 12:29	⇒ 13:25
変更後	12:28	⇒ 12:37	⇒ 13:33

※ 8分遅くなります。



「ふれあいいうづか」…（通年）
 ・ 兎塚小学校内
 ・ 射添小学校内
 「ふれあいいうづか」…（夏、冬、春休みのみ）

● 利用料

児童一人につき月額7000円

※ おやつ代、保険料などは別途必要

● 申込み方法

役場または村岡地域局にある入所申込書に必要事項を記入し提出してください。

※ 随時申し込みを受け付けますが、入所条件を満たさない場合や定員を超えた場合は、入所をお断りすることがあります。



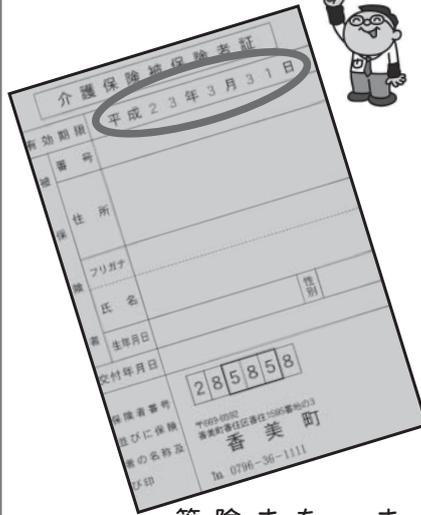
有効期限表示のある介護保険被保険者証

4月1日以降も使えます！

● 問い合わせ先 役場福祉課介護保険係（香住地域福祉センター内）

平成17年10月の介護保険法改正により、介護保険被保険者証の有効期限が廃止され、介護認定を受けている場合や再交付を受けている場合は、有効期限のない新しい被保険者証が交付されています。

ここに注目!!
 手続きは必要ありません。



それより前に交付された被保険者証は、有効期限が平成23年3月31日と表示されていますが、経過措置により4月1日以降もそのまま利用することができます。あらためて更新の手続きをしていただく必要はありません。現在お持ちの被保険者証をそのまま大切に保管してください。



平成23年度

放課後児童クラブ入所児童の募集

● 問い合わせ（申し込み）先 役場福祉課・村岡地域局健康福祉課

放課後児童クラブでは、保護者などが仕事で昼間家庭にいない幼稚園児および小学生をお預かりし、遊びや自習などを通して、安心して楽しい時間を送れるようにしています。

● 募集クラブと開設時期

・ 香住小学校内

「スマイルかすみ」…（通年）

・ 村岡小学校内

「ふれあいむらおか」…（通年）

・ 兎塚小学校内

「ふれあいいうづか」…（通年）

・ 射添小学校内

「ふれあいいうづか」…（夏、冬、春休みのみ）

● 対象児童

昼間、家庭に保護者などがいない幼稚園から小学4年生までの児童（障害児童は中学3年生まで）

● 募集人数

各クラブ約30人

● 開設日

月曜日から土曜日

（祝日、年末年始、お盆は除く）

● 開設時間

幼稚園または小学校の終業時から午後6時まで（土曜日および夏、冬、春休みは午前8時から午後6時まで）



観光PR名刺の台紙を無料配布!

●問い合わせ(申し込み)先 役場観光商工課

今日からあなたも「観光セールスマン」!

町内の観光名所や特産物などで彩った名刺を使って、香美町をPRしてみませんか。名刺の台紙を無料で配付します。

◇台紙(写真)の種類

- ①松葉ガニ、②カニ刺し、③但馬牛、④但馬牛肉料理、⑤鎧の袖、⑥スキー場、⑦猿尾滝、⑧うへ山の棚田、⑨海岸の夕陽、⑩樹齢1000年の大カツラの10種類(町ホームページに掲載)

◇配付対象

町内在住、在勤の人(個人、法人は問わない)

◇配付部数

1種類100枚(一人あたり1種類) ※先着順

◇申込方法

電話、ファックス、メールで必要事項(氏名、住所、電話番号、希望する台紙の種類)を役場に連絡してください。

◇締め切り

3月28日(月)

◇配付方法

3月30日(水)から役場観光商工課または各地域局地域振興課の窓口で配付します。



▲但馬牛(上段)と松葉ガニ(下段)の写真を使った台紙(実物はカラー)
 ※住所、氏名、町名は各自で印刷してください。

遊覧船 無料体験乗船!



「写真では見たことがあるけど、実物はまだ!」という人のために、遊覧船の体験乗船を行います。今回は国指定の天然記念物「鎧の袖」や、「鷹の巣島(インディアン島)」を見ることができ、コースを巡ります。

この機会に日本海や日本列島形成の足跡を体感してください。

●とき

3月19日(土)、27日(日) 午前9時30分出発

●ところ

遊覧船かすみ丸乗り場

●対象

町民のみ80人

※乗船時に町民であることを証明する免許証、保険証などの提示が必要

※小学生以下の子どもが乗船する場合、保護者の同乗が必要

●申込方法

事前に役場に申し込んでください。ただし、定員に達し次第、締め切ります。

●今後予定されているさまざまイベント(4月~6月)

開催日時	集合場所など	受講料	定員	対象	申込期限
町内のタンポポを見る(県内で山陰にのみ分布するヤマザトタンポポ、キビシロタンポポを現地で観察)					
4月16日(土) 10:00~15:00	小代物産館	大人500円 小・中学生300円	20人	小学校高学年以上	3月27日(日)
山と海のジオパークツアー!(1日目に八チ北高原の植生、2日目は海岸特有の地質や生き物を観察)					
5月25日(水) 13:00~	八チ北ファミリーグレンデ駐車場	1,000円	20人	大人	5月5日(木)
5月26日(木) 9:00~16:00	香美町海の文化館				
山陰海岸ジオパークの石を見分けよう(ジオパークにある実際の岩石を見ながら石の見分け方を学ぶ)					
6月18日(土) 13:30~15:30	香住区中央公民館	大人500円 小・中学生300円	30人	小学生以上	5月29日(日)

●問い合わせ(申し込み)先 役場観光商工課

ひとはく

くジオパークセミナー!

植物や生き物を通して「ジオパーク」を気軽に楽しみませんか。人と自然の博物館が月1回、町内でさまざまなイベントを行います。どうぞご参加ください!

【町長表彰】

- 川端 詩織 (香住小6年)
 - 平成22年度兵庫県交通安全ポスターコンクール最優秀賞 (県知事賞)
- 榎 翔大 (香住一中1年)
 - 平成22年度兵庫県交通安全ポスターコンクール最優秀賞 (県警察本部長賞)
- 山本 真生 (香住一中1年)
 - 平成22年度ひょうごの子作品展 (作文) 県知事賞
- 山田 航大 (香住一中3年)
 - 第59回近畿中学校総合体育大会 (陸上競技) 共通男子棒高跳第3位
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第62回兵庫県中学校陸上競技大会共通男子棒高跳第1位
- 森田 玲加 (香住一中2年)
 - 第59回近畿中学校総合体育大会 (陸上競技) 女子低学年4×100mリレー第3位
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第62回兵庫県中学校陸上競技大会女子低学年4×100mリレー第1位
- 小西 陽 (香住一中2年)
 - 第59回近畿中学校総合体育大会 (陸上競技) 女子低学年4×100mリレー第3位
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第62回兵庫県中学校陸上競技大会女子低学年4×100mリレー第1位
- 瀬戸 浦佑奈 (香住一中1年)
 - 第59回近畿中学校総合体育大会 (陸上競技) 女子低学年4×100mリレー第3位
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第62回兵庫県中学校陸上競技大会女子低学年4×100mリレー第1位
- 川田 宏美 (香住一中1年)
 - 第59回近畿中学校総合体育大会 (陸上競技) 女子低学年4×100mリレー第3位
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第62回兵庫県中学校陸上競技大会女子低学年4×100mリレー第1位
- 上田 環 (香住一中3年)
 - 第56回全日本中学校通信陸上競技兵庫県大会共通男子棒高跳第1位
- 香住第一中学校
 - 第70回全国教育美術展教育美術振興会最賞
 - 第70回全国教育美術展教育美術奨励賞
- 香住第一中学校生徒会
 - 平成22年度公益財団法人兵庫県青少年部長表彰 (こころ豊かな地域づくりに貢献) 兵庫県青少年部長表彰
- 亀村 茉衣子 (香住二中3年)
 - 平成22年度兵庫県交通安全ポスターコンクール最優秀賞 (県警察本部長賞)
 - 第2回「私のまちのいいこと」作文コンテスト県知事賞
- 村岡中学校
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会団体総合優勝 (女子)



おめでとう！

平成22年度がんばった児童・生徒を表彰

役場本庁舎で3月7日、スポーツや芸術などで活躍した町内の児童・生徒を表彰する「平成22年度 児童生徒表彰式」を行いました。(順不同・敬称略)

●問い合わせ先 町教育委員会教育総務課

【教育長表彰】

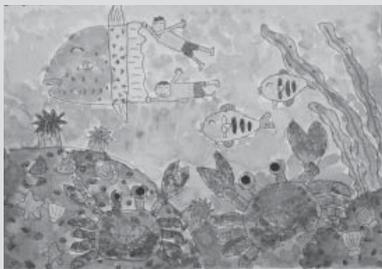
- 森 朝香 (村岡中3年)
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会女子ジャンプ第1位
 - 女子スラローム第1位
- 上田 晃也 (村岡中2年)
 - 第59回近畿中学校総合体育大会スキー選手権大会男子ジャンプ第3位
- 小代中学校
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会団体総合優勝 (男子)
- 小林 諒多 (小代中3年)
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会男子クロスカントリーフリー第1位
 - 男子リレー競技第1位
- 藤村 敦也 (小代中3年)
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会男子リレー競技第1位
- 邊見 聖 (小代中3年)
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会男子リレー競技第1位
- 小林 和光 (小代中2年)
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会男子クロスカントリーシカール第1位
 - 男子リレー競技第1位
- 川戸 将稔 (小代中2年)
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会男子スラローム第1位
- 滝本 蓮 (香住第一中1年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 真戸 茅子 (香住第一中1年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 宮下 圭介 (香住第二中2年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 稲垣 百那 (香住第二中2年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 滝本 真由子 (香住第二中2年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 西村 華澄 (香住第二中2年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 沼田 茉里那 (香住第二中2年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 原田 夏帆 (香住第二中2年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 津田 侑香里 (香住第二中3年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 中瀬 宝 (香住第二中3年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 守山 滯 (香住第二中3年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 西田 沙陽 (香住第二中3年)
 - 第70回全国教育美術展特選
- 小谷 美王 (村岡中2年)
 - 平成22年度兵庫県中学生作曲コンクール銀賞
 - 第54回兵庫県中学校総合体育大会、第56回兵庫県中学校スキー選手権大会女子ジャンプ第2位

第14回「海の絵画展」

作品の紹介

「海」をテーマに募集した第14回海の絵画展（海の文化館主催）。町内外の小中学生から394点の応募があり、美しい海や魚、漁船や漁港を題材にした素晴らしい力作が集まりました。ここで、特選に選ばれた作品をご紹介します。（敬称略）

●問い合わせ先 役場農林水産課



「海の底は楽しいな」
松井泰晟（佐津小1年）



「海の仲間と友達」
勝部里菜（名張市立桔梗ヶ丘東小3年）



「えび」
安居佑之輔（豊岡市立五荘小5年）



「海岸の小屋」
目海（名張市立北中1年）



「ひまわりと海」
守山 藩（香住第二中3年）



「大きなカジキをつりあげた！」
藤本 匠（朝来市立与布土小2年）



「巨大ザリガニ」
上坂駿斗（豊岡市立八条小4年）



「海底ゴミと松栄丸」
吉津友香子（柴山小6年）



「出港前の漁港」
義本風佳（香住第二中2年）

ありがとうございます
感謝状を贈りました

村岡区八井谷の集会所を利用する高齢者などの利便性を図るために、八井谷区の皆さんが行った手すり、スロープ、凍結防止剤格納箱などの設置工事に協力（労力、機材の提供）された、株西山工務店に長瀬町長から感謝状を贈りました。



▲感謝状を贈呈される株西山工務店
営業総務部課長 東垣泰彦 氏

おめでとうございます

町内から表彰受賞者がありました

（敬称略）

文部科学大臣優秀教員表彰
田上栄美子（柴山小学校）
西谷奈里子（小代中学校）
本上亮典（村岡中学校）
統計功労経済産業大臣表彰
池本久子（香住区西香住）

統計功労兵庫県知事表彰
中島功恵（香住区香住）
統計功労兵庫県知事感謝
山本倫子（香住区沖浦）



文芸かみ

香住短歌会

※このコーナーでは、香美町文化協会所属の各団体の俳句・短歌を毎月掲載します。

信号機の三兄弟は風雨に耐え皆の命を守りつづ
けぬ
今井清子

大鍋に良きも悪きも投げ入れてじっくり煮込ま
ん人生の味を
岩本道代

山茶花の緑なる葉にあやされて咲きいる花に初
雪舞える
大西弘

モノクロの世界も愉し雪景色カイロのひとつ懐
にあり
岡村美砂子

晩年は吉といわれし占いを信じ続けて立春を待
つ
川端幸代

遠き日よマントの内に杉葉下げ登校急ぐ当番の
意気
小西松子

あと五年のリース契約しておりぬ仕事も身体も
保証はなけれど
嶋田富美代

学ランの着用もあとわずか輝け青雲惜しむな努
力
滝本正直

目覚めれば何はともあれ外を見る冬將軍は今朝
も大暴れ
玉置美佐子

歳とれば長く感じるひととせよ眠れぬ夜の孤独
を友に
中村典子

寒の雷闇夜の空にとどろけば冬將軍が降りてく
るぞよ
沼田和代

の
六キロの雪道歩き通学せし思い出遙か三八豪雪
原田明美

◆定例会（香住区中央公民館）

毎月第二木曜日 午後1時30分〜午後4時

崩れてはまた立ち上がる冬波に心の歪もどされ
てゆく
藤原町子

響り立つ春一番の岩のりと持ち呉る君の顔も
艶やつやと
山田素子

善意の輪が広がっています
エコキャップ運動

平成21年7月から取り
組んでいるエコキャップ
運動。昨年7月から今年1
月までに318,119個のペッ
トボトルキャップを回収す
ることができました。



多くの皆さんにご理解とご協力をいただき、誠に
ありがとうございました。

回収したキャップをポリオワクチンに換算すると
約400人分。多くの子どもの命を救うとともに、
キャップの再資源化で二酸化炭素排出量を削減
することができ、地球温暖化防止にもつながります。

運動が始まってから今までに回収したペットボ
トルキャップは727,700個（ポリオワクチン約910
人分）。命と環境を大切にこの運動にこれから
も引き続き皆さんのご協力をお願いします。

●回収箱設置場所

香住区
役場本庁舎
香住区中央公民館
各地区公民館
香住文化会館
香住B&G海洋センター
公立香住病院
香美町社会福祉協議会香住支所
村岡区
村岡地域局
村岡区中央公民館
各地区公民館
香美町社会福祉協議会村岡支所
小代区
小代地域局
小代区地域連携センター
香美町社会福祉協議会小代支所



●問い合わせ先

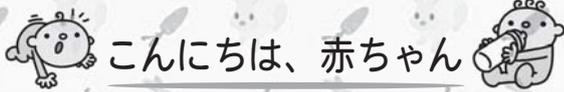
役場町民課
各地域局健康福祉課

◆お詫びと訂正◆

広報「ふるさと香美」第71号（平成23年2月号）
の記事に、以下のとおり誤りがありました。

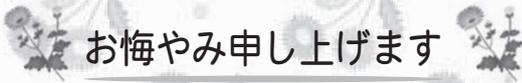
関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました
ことをお詫びして、訂正いたします。

- ・14ページの「村岡区新春ジャンボ書初大会」の記事
のうち、特選に入賞した中村睦さんの学校名が「兎塚
小」とありますが、正しくは「射添小」でした。
- ・16ページ（裏表紙）3段目3行の八幡神社の振り仮
名が「やはた」とありますが、正しくは「はちまん」
でした。



この記事につきましては、関係者の皆さんにホームページ上での公開承諾を得ておりませんので、個人情報保護によりホームページ上での掲載を控えさせていただきます。

※このコーナーは、先月（1/24～2/21）の届出分の内、承諾を得た方のみ掲載しています。（届出順・敬称略）



この記事につきましては、関係者の皆さんにホームページ上での公開承諾を得ておりませんので、個人情報保護によりホームページ上での掲載を控えさせていただきます。

※このコーナーは、先月（1/24～2/21）の届出分の内、承諾を得た方のみ掲載しています。（届出順・敬称略）

求人情報

詳細はハローワークにおたずねください
（平成 23 年 2 月 21 日現在、順不同）

●問い合わせ先 ハローワーク香住

TEL 0796・36・0137

＜正社員＞				
職種	人数	年齢	勤務地など	事業所名
製造加工	3	不問	香住区境	㈱にしとも食品
水産加工	1	不問	香住区一日市	第八長栄㈱
事務	1	40以下	香住区無南垣	亀村亀雄税理士事務所
接客	2	不問	香住区下浜	㈱三宝
調理・接客	1	不問	香住区香住	㈱スタミナフードサービス
歯科衛生士	1	不問	香住区七日市	西村歯科医院
歯科助手	1	不問	香住区若松	かわばた歯科医院
機械設備管理補助	1	59以下	香住区間室	㈱北近畿環境開発
事務	1	40以下	香住区森	㈱ナカイ自動車センター
畜産	1	40以下	村岡区宿	㈱上田畜産
組立製造	2	40以下	村岡区村岡	エイワ電器㈱
出荷事務	1	35以下	村岡区高井	入江精密工業㈱
機材オペレーター	1	不問	村岡区入江	美岡工業㈱
機材オペレーター	1	59以下	村岡区入江	ヨシオカテクノ㈱
販売	1	35以下	村岡区入江	㈱田中商店

＜正社員以外（パートなど）＞				
職種	人数	年齢	勤務地など	事業所名
自動車整備	1	不問	香住区七日市	㈱ジェイアクロス
ガソリンスタンド	1	不問		
調理（香住病院）	1	不問	香住区若松	㈱メフォス山陰営業所
水産加工	1	不問	香住区若松	㈱共和食品
水産加工	1	不問	香住区一日市	第八長栄㈱
接客	2	不問	香住区下浜	㈱三宝
調理・接客	3	不問	香住区香住	㈱スタミナフードサービス
接客	2	不問	香住区七日市	平和焼肉
接客	1	不問	香住区香住	㈱三七十
接客	1	不問	香住区香住	酒膳めいぶる
接客	1	18以上	香住区下浜	スナックふれあい
接客	1	不問	香住区三谷	矢田川開発㈱
縫製	2	不問	村岡区高井	テサントアパレル㈱村岡工場
組立製造	3	45以下	村岡区村岡	エイワ電器㈱
販売	1	59以下	村岡区入江	㈱田中商店

編集後記

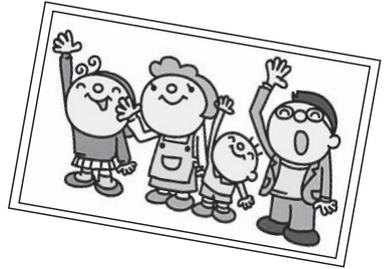
2月11日に行われた「香美町の医療を考えるフォーラム」。

閉会后、参加した皆さんが記載したアンケートに目に通すと、そこにはこの問題を真剣に考え、そして地域のことを想う温かな気持ちを持った皆さんの顔が浮かんでくるようでした。

本号で掲載したフォーラムの概要が多くの皆さんの一助となれば幸いです。（みうら）

写真でつづる
まちのできごと

Photo News



▲教育美術振興会会長賞の受賞を喜ぶ生徒たち



香住第二中学校が 教育美術振興会会長賞を受賞！

第70回全国教育美術展（3月4日、東京で授賞式）

財団法人教育美術振興会が主催する第70回全国教育美術展で、香住第二中学校が最高賞に次ぐ教育美術振興会会長賞を受賞しました。同校は、平成18年度に最高位の文部科学大臣奨励賞を受賞。今回の会長賞は平成16年度に続き2回目となり、美術教育に力を注いできた同校の取り組みが素晴らしい結果につながりました。

この美術展は、大正11年（1922年）に始まった日本でも最も伝統のある子どもの絵の展覧会で、毎年、全国から集められた子どもの絵を展覧、審査しています。今回は2694の保育所、幼稚園、小・中学校から計12万428点が寄せられ、香住第二中学校は全校生66人のうち40人が応募。12人が特選、6人が入選に受賞する快挙を達成しました。

今回、同校生徒が出展した作品は、漁船や田畑など生徒の身近にある風景を水彩画で描いたもので、同校では今後、特選作品でカレンダーを作成し、保護者や関係者などに配布する予定です。



支え合いの心が雪を解かす！

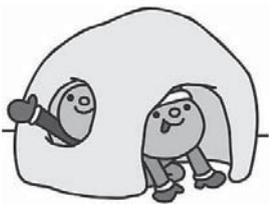
除雪ボランティアが町内各所で活躍

昨年末から大雪に見舞われた香美町。高齢化などで自力での除雪が困難な家や集落が目立つなか、多くのボランティアが協力して除雪を行っています。村岡高校では「村高除雪隊」が出勤、福祉施設などの除雪を行ったほか、香住高校では2月1日、同校生徒会やボランティア同好会のメンバーら約80人が3時間程度かけて保育園や小学校の通学路、また同校周辺の一人暮らしの高齢者宅の除雪を行いました。生徒はスコップやスノーダンプを使い、園児や児童が通学しやすいようにと幅約1mにわたり丁寧に雪を取り除きました。

香住高校生徒会長で海洋科学科2年の藤井一磨さんは「多くの皆さんから『ありがとう』と声を掛けてもらい、地域の役に立てたことが大変うれしい。神戸出身ですが、愛する『第2のふるさと』香美町を奉仕の心でいっぱいにしていきたい」と語ってくれました。



▲住民と一緒に雪かきに汗を流す生徒たち



▲相手選手めがけて雪玉を投げる選手

白球にすべてを込めて！

第4回香美町小学生交流卓球大会（2月20日、香住B&G海洋センター）



▲ラリーを繰り広げる選手たち

日ごろの練習の成果を競おうと行われたこの大会には、町内の小学生37人が参加し熱戦を繰り広げました。

男女とも低学年（小学校1～3年生）と高学年（同4～6年生）ごとに数ブロックに分かれ予選を行い、各ブロックの上位2位までが決勝トーナメントに進出し、優勝を目指します。試合では、白球を追って選手同士がラリーを展開し鋭いスマッシュが決まると思わずガッツポーズをする選手もいました。

参加した橋本陸くん（余部小4年、香住区市午）は「緊張して足が震えたけど、スマッシュが決まってくれよかった。来年は優勝したいです」と意気込んでいました。

なお、各部の優勝は次のとおりです（敬称略）。

低学年男子の部▼奥田愛斗（余部小3年）、低学年女子の部▼田中鈴（村岡小3年）、高学年男子の部▼小西健太郎（射添小4年）、高学年女子の部▼村瀬晶子（村岡小6年）

今年のハチ北の白い巨塔は2 m 60 cm！

ハチ北スキーフェスティバル2011（2月20日、ハチ北高原スキー場）

冬晴れの穏やかな天候の下、多くのスノーファンでにぎわうハチ北高原スキー場で行われた「ハチ北スキーフェスティバル2011」。

この日行われた「第5回雪玉積み選手権」には45組が参加。5分の制限時間内にソフトボール大の雪玉をどれだけ高く積み上げていくかを競いました。

1 m 44 cmの高さを積み上げ見事優勝した、チームかなたの渡辺真さん（大阪市）は「今日は、友だちの家族と一緒に遊びにきました。作戦どおりに雪玉を積んだこと、そして家族愛が優勝につながりました」とうれしそうに語ってくれました。

会場では、参加者が競技に使った雪玉を1カ所に集め、高さ2 m 60 cmの「ハチ北白い巨塔」を築き上げていました。



▲出来上がった雪の塔の計測を受ける参加者

雪球をかいくぐり フラッグを奪取せよ！

第11回兵庫県雪合戦大会

（2月5、6日、小代中学校グラウンド）

2月5日、6日の2日間で行われた兵庫県雪合戦大会。天候にも雪にも恵まれ、3年ぶりに本物の雪球で試合を行うことができました。今回は町内外の小学生から大人まで43チーム約430人の選手が参加。会場となった小代中学校グラウンドは、選手と応援する観客の熱気があふれていました。

公式雪合戦は、監督と7人の選手で1チームとなり、40 m×10 mのコート上で雪合戦を行い、相手チームのフラッグ（旗）を抜くか、雪球を当ててアウトにし、残った選手の数などで勝敗を競います。

参加したチームは、それぞれ独特の作戦でゲームを展開。雪球が飛び交うコートでは、雪玉が人に当たるたびに大きな歓声が上がりました。

参加者の一人は「子どもたちのように無邪気になれますね」と笑顔で語ってくれました。

なお、大会結果は次のとおりです（敬称略）。

一般の部▼1位 大和野郎（村岡区）、2位 京都まとい倶楽部（京都府）、3位 G T M（豊岡市）、レディースの部▼1位 村岡御殿（村岡区）、2位 光陽ママ（村岡区）、3位 K U N O I C H I（新温泉町）、ジュニアの部▼1位 小代美少クラブ（小代区）、2位 照来メッツチャンピオンズ（新温泉町）、3位 照来メッツファイターズ（新温泉町）

役場各課など
主な施設の連絡先

役場本庁舎	36・1111
(代表)	
総務課	36・1111
企画課	36・1962
税務課	36・1113
会計課	36・4321
町民課	36・1110
健康課	36・1114
福祉課	36・1964
農林水産課	36・0846
観光商工課	36・3355
建設課	36・1961
上下水道課	36・0420
議会事務局	36・1963

村岡地域局	94・0321
(代表)	
小代地域局	97・3111
(代表)	
地域振興課	97・3370
健康福祉課	97・3375
農林建設課	97・3373
教育委員会	94・0101
香住分室	36・3764
小代分室	97・3966
公立香住病院	36・1166
公立村岡病院	94・0111
香住地域福祉センター	36・4345
香住老人福祉センター	36・5008
村岡老人福祉センター	98・1000
小代高齢者生活支援センター	97・2202

(全ての施設の市外局番：0796)

まちのうごき
(平成23年2月1日現在)

合計	20,919人 (-22)
男	9,961人 (-11)
女	10,958人 (-11)
世帯数	6,893世帯 (-6)
カッコ内は前月比	



◇問い合わせ先 町教育委員会社会教育課

村岡藩主

山名家廟所

今回は、江戸時代から明治の初めごろまで村岡、小代周辺を治めていた村岡山名家の廟所をご紹介します。この廟所という言葉、あまり聞きなれないと思いますが、現在の墓所にあたるものです。

さて、平成17年の合併で香美町は美方郡に属することとなりましたが、もともと美方郡は、明治時代に七美郡(現在の村岡区、小代区)と二方郡(現在の新温泉町)が合併して新たに誕生したものです。このうち七美郡を治めていたのが村岡山名家です。この村岡山名家とはどのようなものだったのでしょうか。

南北朝時代、山名氏は山陰地方を中心に勢力を広げ、一時は全国66カ国のうち11カ国を治め「六分の

一殿」と呼ばれるほどの大きな勢力を誇っていました。しかし、その大きすぎる力を恐れた時の將軍の手によって徐々に没落していくことになりました。また、家督争いや周辺の勢力争いのために領地も失っていきませんが、戦国時代末期、徳川方についていた山名豊国はその武功を認められ、七美郡を領地として与えられました。

山名豊国は村岡山名家の初代となりましたが、生涯を江戸で過ごしました。また、2代豊政も同様で、領主が初めての国入りを果たしたのは3代矩豊になってからのことです。矩豊が来るまで兎塚の福岡村に置かれていた陣屋も、国入りに併せて黒野村(現在の村岡区村岡周辺)に移りました。

矩豊は村岡と小代にまたがる一二峠に豊国を供奉するための五輪塔を建立しました。この五輪塔は御利益があると評判になり、峠を通る人々がそのたびに削り取っていきました。現在は昔の面影を残すことなく、丸い石だけがひっそりとたたずんでいます。

三代矩豊から十代義問までは御殿山公園の北西山すそにある壺溪廟所、十一代義濟から十三代義鶴に至るまでは御殿山公園にある尾白山(桜山)廟所に奉安されています。三代目から十三代目までの廟所は大名格にふさわしい風格と威厳を兼ね備えた堂々たるもので、平成元年5月30日に町指定文化財に指

定されました。これらの廟所は村岡山名家の菩提寺である法運寺と多くの関係者の護持によりその遺功を現在に伝えるています。



▶二峠廟所



▶尾白山(桜山)廟所



▶壺溪廟所



この「広報ふるさと香美」は、自然環境を考えてソイ(大豆油)インキ、再生紙を使用しています。